

博物館実習時の服装等について

博物館学芸員は、美術品等の貴重品を取り扱うため作業に適した服装であることが求められます。と同時に、その職務の性質上、不特定多数の方と接します。従って、「人は外見で判断してはいけない」「人は見かけによらない」とも言いますが、第三者に与える第一印象が学芸員にとってはとても重要ですので、社会通念上、常識的な服装等であることが求められます。

また、資料を扱う場合には、筆記具には HB の鉛筆を用いる（シャープペンシルは、芯が折れて飛び散るので用いない）等の「常識」に基づいた行動を取るよう心がけましょう。

<服装>

- ・ 上着（ジャンパー等）を着る場合には、ボタン、ポケット、フリル等の少ないもので、袖・裾が開いていないものが望ましい。
- ・ 上着を着ない場合には、ボタン、ポケット、フリル等が少なく、袖・裾が開いていないもの（例えばTシャツやトレーナー等）が望ましい。
- ・ 下はズボンが望ましい

※ローライズパンツやタンクトップ等、肌の露出が多い衣服はこれを批判的にみる方も少なくないことを認識しておきましょう。また、肌の露出が多いということは、夏場など資料に接触した際に汗が移る可能性があり、また、作業時にはケガをする危険性もあるので、極力避けることが賢明です。

<靴>

着脱しやすいもの（紐のあるものは望ましくない）で、かかとの低い安定性のあるものが望ましい。

<アクセサリ、時計類>

資料の取り扱い時には、すべて取り外すことになるので装着を控える。

<化粧>

資料の取り扱い時には控える。

<ハンカチ>

2枚持参する（1枚は鞆にしのばせておき、必要に応じて口にあてる時などに用いる）。

<爪>

指先から爪が飛び出さないよう整える。

<髪>

油脂系の整髪料は用いず、また、前にかがんだ際に前髪がたれないようにする。